
神曲

不肖。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神曲

【Nコード】

N9073D

【作者名】

不肖。

【あらすじ】

永久の幸福、天国に辿り着いた男の話。

前

天国。

罪無き純真な人々が辿り着く最後の楽園。

争いから、飢餓から、悲しみ、死から遠ざかれたこの場所で人々は笑い合い、語り合い、永久の平和を享受していた。

優太は最近此処にやって来た。誰からも愛され、優しさに溢れていた彼は不運の交通事故によりその命を絶たれた。

訪れた天国にて幸せな生活を送っていた優太だったが、彼にはひとつだけ心残りがあった。

現世に残した妻、由香里の事である。

東大在学中に出会い、卒業と同時に結婚して二年目の不運。

天国で再び再会出来ると知っている優太には離別の悲しみは余り感じられないのだが、現世で生きる彼女が自分の死によって悲哀に墜ちてしまっているのではないか、と不安になってしまったのだ。

それを天使に告げると、彼女はこう告げた。

「現世を見る穴があります。由香里さんの今の状態を見てみては？」

喜んだ優太は早速穴を覗いてみたのだが、奇妙な事にどこを探しても由香里の姿はない。

「おかしいですね。由香里さんを思えば、すぐに彼女の現在地が見える筈なんですが」

天使は暫く考えた後、小さく手を打った。

「由香里さんは既に亡くなっているのでは？」

そんな筈は、と一時間程彼女を探してみたのだが、やはり見つからない。

焦り始めた優太に天使は言った。

「分かりました。由香里さんは自殺していました。今、地獄にいます」

後（前書き）

後書きにも続きます。

後

自殺。

神が定めた最も酷い悪行。

自殺した者は現世の行いに関わらず地獄の底”常闇”にて永久にその痛みを繰り返してゆく。

「由香里さんは貴方を失った喪失感から、投身自殺をしてしまいました。今は地獄の底で永久に投身が続いています」
天使が溜息混じりに言う。

優太は耳を疑い、自らの不運を呪った。
まさか自分に対する由香里の愛情が裏目に出て罪人と成ってしまうとは。

優太の頬に一筋の涙が流れた。

「地獄に行った者への酌量は無理です。あちらへ行かれた方を連れて来るのも勿論、不可能」
絶対の直中に倒れ込む優太を見下ろしながら天使は言った。

それから後、優太は天国の中で一番大きな悲しみを抱えた男になった。

優太の由香里に対する愛情は本物である。
彼女が今も汚され、自分だけが純白な天国に暮らしている事がどうしても我慢出来なかったのだ。

神様や天使達も彼の悲痛な叫びに胸を痛めていたのだが、どうする事も出来なかった。

「由香里さんに会う方法があります」

そう言ったのは、優太に由香里の死を告げた天使だった。

彼女は自分が由香里の死を伝えた事への罪悪感を感じていたのだ。

「地獄と天国を繋ぐ穴があります。しかし、墜ちたら最後。二度と天国に戻る事は叶わず、貴方は地獄の淵を永久に彷徨う事になります」

神様と相談した苦肉の策だった。

しかし、優太は彼女の言葉に恐怖は一切抱かず、逆に由香里に会える可能性を示してくれた事に感謝を述べた。

「何故、貴方はそこまでして由香里さんを求めるのですか？」

「愛する妻との離別是不幸。この苦しみを抱いたままの彼女と逢えない永久の安らぎに、私は少しの魅力も感じない」

「ですが、由香里さんが貴方を認識する事は出来ません。貴方が彼女に話しかけたとしても、それは離別と何等変りの無いものではありませんか？」

優太は言う。

「愛する女を守れなかった私に、何故天国に止まる資格があるのか」

その時天使は気付いた。

最早彼は優太ではなく、”由香里の夫”だったのだ。

彼が並べたのは妻に対する罪悪感と愛情、そして自らへの憤りだったのだ。

「愛する女ひとり守れなくて、何が男だ」

もう一度優太は呟き、地獄に続く穴に身を投じた。

後（後書き）

後に神はこう語る。

「何故彼が天国を捨てたのか、私には分らない」

「しかし、彼は偉大である。彼の内なる何かは確かに天国と地獄の境を越えた」

「自らの幸福を捨てた究極の自己犠牲であった」と。

後に天使はこう語る。

「彼の彼女に対する愛は余りに脆く、死によって阻まれた」

「しかし、それはとても美しかった。そして同時に純真で、とても強い光だった」と。

優太は自らの幸福を捨て、由香里を想った。

後に人々はこう語る。

「誰かを想う気持ちの人が人を越えた」と。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9073d/>

神曲

2010年10月20日16時30分発行